

環境対応と小ロット対応に威力

## フィルム用UVオフ輪完成

有機溶剤の排出規制に対する具体的な対策と、小ロット多品種に加え多頻度短納期の対応が求められている軟包装印刷業界にとって朗報ともいえるべき、軟包装・フィルム用オフセット輪転機がこのほど完成した。開発したのはビジネスフォームやラベル印刷向けのオフセット輪転機で定評のあるミヤコシで、UVオフセット輪転機「フィルム用 VAR18」がそれ。同印刷機はビジネスフォーム印刷機「VAR18」をベースに、軟包装印刷機としての改良を施したものだ。同社は環境対応のほか、作業の効率化・軽減化を図れる新たな印刷ソリューションとして、国内外のパッケージ印刷事業者へ広く提案していく。

軟包装・フィルム用オフ輪「フィルム用 VAR18」は、昨年 10 月に開催された「東京パック 2006」に参考出品し、業界の注目を集めた。実用化までにはフィルム基材やインキなどの印刷機材で検証を繰り返し、厚さ 12 ミクロンメートルのフィルムへの印刷や、天地 16 インチであれば毎分 200 ショット(毎分 76 メートル)を印刷できるまでにバージョンアップした。

今回発表した「フィルム用 VAR18」は、間欠送りの4色オフセットに、フレキシユニットを搭載。操作はタッチパネルからでき、画面上で印刷加工見当や調整ができる。単独モーター駆動のバリエーション式なので版胴交換が不要。版はオフセットならではの PS 版なのでランニングコストを大幅に削減できる。PS 版はアルミで薄く軽いので、版交換は簡単。オペレーターの作業の軽減ができ、セット時間の短縮化も図れる。まさに小ロット多品種短納期にも対応できるフィルム印刷機ともいえる。完成した「フィルム用 VAR18」は、印刷幅 18 インチだが、26 インチ幅のナロー・ミドルウェブの印刷機の提案も予定している。

オフ輪が得意とするグラデーション印刷がフィルム基材にも表現ができるようになる。またオフセット印刷で普及している CTP を活用することで、より高線数高解像度の印刷もできるようになり、例えば AM スクリーンと FM スクリーンとのハイブリッド印刷で、よりシャープで高精細な表現や極細文字の印刷も可能に。実際の「フィルム用 VAR18」では、フィルム基材に 500 線や 600 線の PS 刷版で印刷して、高精彩な仕上がりになった。印刷したサンプル(軟包装・フィルム)は、「IGAS2007」でも公開された。

「フィルム用 VAR18」は、昨年の「東京パック 2006」に参考出品したこともあって、国内の関係者からの問い合わせはもとより、海外からも、特に VOC の排出規制が厳しい国の関係者から具体的な引き合いがきているという。

(2007 年 12 月 15 日 ラベル新聞 掲載  
2007 年 10 月号 食品包装 掲載  
2007 年 9 月 24 日 包装タイムス 掲載  
2007 年 9 月 17 日 包装タイムス 掲載  
2007 年 9 月 15 日 ラベル新聞 掲載)